

市長から 市民のみなさんへ 60



山陽小野田市長 白井 博文

山陽市民病院の今後の方針について

「新病院建設構想検討委員会」からいただいた中間答申の内容を市民のみなさんにお伝えする説明会を9月の終わりから山陽地区の4会場で開催しました。ご参加をいただきましたみなさんに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

多くの方から「施設が老朽化していることは理解できるが、何とか今のまま病院を残してもらえないか」という切実なご要望などをいただきました。約50年もの間、山陽地区の地域医療の拠点として大きな役割を果たし、住民のみなさんに親しまれてきた病院であることなどを考えると、まさに苦渋の選択となりましたが、この度、**平成20年3月末日をもって、山陽市民病院を小野田市民病院に統合することを市長として決断しました。**

統合により生じる“混乱”と“不便”に対して、市としては誠意を持って対応してまいります。現在、入院していらっしゃる患者さんの転院に関しては、最終的には小野田市民病院が責任を持ちますが、まずは患者さんやご家族のご希望を最優先させ、受け入れ先との調整を図っていきます。通院で利用されている方に対しては、地域に医療空白をつくらないように医師会

対話の日 【いずれの会場も19:00から】



11月14日(水) 旭尻公会堂
11月29日(木) 梅田自治会館

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。

にご協力をいただきながら、山陽市民病院から小野田市民病院を結ぶ無料の直行バスを運行させ、ご不便をおかけしないように努めます。また現在、働いている職員の雇用についても責任を持って市の機構全体の中で次の職場を準備します。

平成21年3月まで、約9億円にまで膨らんでいる不良債務をきれいにすることで、国、県の支援を受けて取り組んでいる「第5次病院事業経営健全化計画」の途中で、このような方針決定をすることになりました。財政難にある市にとって、一般会計、特別会計だけで肩代わりすることは不可能と考えられますので、市全体の中でやりくりし、知恵と総力をあげて債務の解消に向けて作業に取り掛かっております。

市の財政が好転する見込みのない現状で、新病院の建設について具体的な計画をお示しすることができないまま、この度の山陽市民病院の統合となりました。「地域医療は行政の担う基本的な業務」ではないのかというご意見には胸が突き刺さる思いがします。市長として、市民の健康を最後に守る“砦”^{とりで}としての公立病院の役割は重々承知しています。その自覚を忘れることなく、これからもこの問題については、全身全霊をもって取り組んでいく決意です。市民のみなさんのご理解、ご協力をお願いします。

水道事業管理者と職員の処分についての経過説明と「お詫び」

財政難にあえぐ本市の財政再建の窮余の策として、平成18年4月から職員の給料月額を“当分の間”、5%減額しているところですが、水道局において、今年4、5月の2か月間にわたり、その減額が行われずに満額支給されるという由々しき事態が発生しました。職員のみならず、市民のみなさんにも相応の“痛み”をお願いし、全市あげて財政再建に取り組んでいる最中に起きた今回のこの事件に関して、その最高責任者としての責任は限りなく重いと判断し、また同人が勤務中、職場のパソコンを不正使用していた行為をもあわせ鑑み、10月11日付けで水道事業管理者を罷免する処分を下しました。

また、同日付で、勤務時間中に業務用のパソコンを不正に使用していた職員の処分も行いました。以前からパソコンの不正使用は厳禁という通知を出しているにもかかわらず、このような不正が発覚したことは痛恨の極みであり、緊張感の欠如という誹りを免れないものでしょう。8月15日号の広報紙において、職員の不祥事についてお詫びしたばかりですが、改めて、市民のみなさんの期待と信頼を大きく裏切ったことについて心から深くお詫び申し上げます。市民のみなさんの信頼は並大抵の努力では取り戻せないことと思いますが、再度、綱紀粛正を徹底し、職員一丸となって、全力で職務に取り組んでいく決意です。